

放流効果調査事業（キツネメバル）

村松里美・鈴木亮・吉田雅範

目 的

第7次栽培漁業基本計画の技術開発対象種となっているキツネメバルの放流技術開発に取り組む。

材料と方法

1. 種苗放流

青森県栽培漁業振興協会が同施設で種苗生産・中間育成した当歳魚に、標識として腹鰭抜去を施し、深浦町北金ヶ沢漁港に放流した。

2. 放流効果調査

放流効果を調べるため、2019年4月～12月に、深浦町北金ヶ沢市場に水揚げされたキツネメバルの標識（腹鰭抜去）の有無を確認した。

結果と考察

1. 種苗放流

（公社）青森県栽培漁業振興協会が種苗生産し左腹鰭抜去を施した平均全長72mmの当歳魚12,000尾を2019年10月21日に深浦町北金ヶ沢漁港内に放流した。また、同日にアンカータグ及びダートタグを装着した平均全長125.0mmの1歳魚180尾と平均全長180.0mmの2歳魚300尾を同一の場所に放流した。これまでの放流では、左右いずれかの腹鰭を毎年交互に抜去し放流年の識別の指標としてきている（表1）。

表1 これまでのキツネメバルの放流結果

放流月日	放流場所	平均全長 (mm)	放流尾数 (尾)	うち 標識尾数	標識部位 (腹鰭抜去)	中間育成方法 (実施海域)
2010/11/19	北金ヶ沢漁港	67	9,850	2,400	右・腹鰭	網生簀(日本海)
2011/10/27	北金ヶ沢漁港	69	5,800	5,800	左・腹鰭	網生簀(日本海)
2012/10/18	北金ヶ沢漁港	67	5,500	1,500	右・腹鰭	陸上水槽(日本海・陸奥湾)
2013/10/10	北金ヶ沢漁港	67	10,000	10,000	左・腹鰭	陸上水槽(太平洋)
2014/10/10	北金ヶ沢漁港	71	10,000	10,000	右・腹鰭	陸上水槽(太平洋)
2015/11/18	北金ヶ沢漁港	67	10,000	10,000	左・腹鰭	陸上水槽(太平洋)
2016/11/21	北金ヶ沢漁港	67	10,000	10,000	右・腹鰭	陸上水槽(太平洋)
2017/10/19	北金ヶ沢漁港	76	10,000	10,000	左・腹鰭	陸上水槽(太平洋)
2018/10/22	北金ヶ沢漁港	77	10,000	10,000	右・腹鰭	陸上水槽(太平洋)
2019/10/21	北金ヶ沢漁港	72	12,000	12,000	左・腹鰭	陸上水槽(太平洋)

2. 放流効果調査

深浦町北金ヶ沢市場では、市場に水揚げされるキツネメバルの銘柄を、1尾当たりの体重が200g未満を「P」、200g以上400g未満を「小」、400g以上1.6kg未満を「大」、1.6kg以上を「大大」としている。銘柄「大大」の漁獲量が非常に少なく、銘柄「P」は、漁獲量が多い日以外は、通常「小ガサ」という銘柄で

クロソイ等の小型メバル類との混合銘柄となっている。2019年4月～12月に市場に水揚げされたキツネメバル計537尾について、標識(腹鰭抜去)の有無を確認したところ、大きさから判断し、左腹鰭が抜去された4歳魚と推定される全長21cmの個体を確認した。標識魚の混入率は0.2%であった(表2)。2013年4月から2019年12月までに再捕されたキツネメバルは11尾で、放流年ごとの回収率は0.01～0.07%であった(表3)。

表2 キツネメバル標識魚(腹鰭抜去)の混入率(2019年4月～12月調査)

銘柄	測定尾数 (尾)	標識魚 (尾)	混入率 (%)
小	217	1	0.5
大	320	0	0.0
合計	537	1	0.2

表3 放流年ごとの回収率

再捕年	放流年 放流尾数 (鰭抜去)	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
2013		1						
2014			1					
2015								
2016				1				
2017					1	2		
2018					2		1	1
2019							1	
合計		1	1	1	3	2	2	1
回収率(%)		0.04	0.02	0.07	0.03	0.02	0.02	0.01

なお、10月21日にアンカータグを装着して放流された2歳魚300尾のうち2尾が46日後の12月6日に大戸瀬沖の底建網に入網した。

2013年以降は継続して10,000尾を標識(腹鰭抜去)放流できていること(表1)、これまでの耳石年齢査定調査から4～7歳が漁獲の大部分を占めていることから、引き続き市場調査を行うことで回収率が高くなると考えられる。